

文学部 大橋崇行先生 推薦

『日本文学の見取り図 宮崎駿から古事記まで』

千葉一幹・西川貴子・松田浩・中丸貴史編

古代から現代に至るまでの日本文学の全体像と、現代の日本文学研究がどのような視点から行われているのかが、一冊でコンパクトに、わかりやすくまとめられています。

日本文学科での学びは、高校までの国語の授業とは大きく違っています。まずはこの本を読んだ上で授業を受けると、理解が深まると思います。

『ファスト&スロー(上・下)』

ダニエル・カーネマン著

この本は、2002年にノーベル経済学賞を受賞したカーネマンによる「人間の意思決定の仕組み」に関する啓蒙書です。人間の思考プロセスは、すばやく判断する直感的な思考回路とじっくりと熟考する高度な思考回路から構成されており、両者を適切に組み合わせることによって効率的な行動をつかさどっているというのが、心理学的な研究によって明らかとなっています。この本を読んで、皆さんの意思決定の問題を考えるヒントにして下さい。

『競争社会の歩き方』

-自分の「強み」を見つけるには』

大竹文雄 著

受験を終えられたばかりの皆さんは「競争」と聞くとよくないイメージがあるのではないのでしょうか。他人を蹴落とすなんてとんでもないと。しかし経済学によると、成績や順位をつけない教育を受けた方が実は自分勝手に、世の中全て自己責任といった価値観をもってしまうそうです。経済学はこのように人の行動を分析する学問です。是非身近な行動を経済学に当てはめてみて下さい。

『いつも「時間がない」あなたに
- 欠乏の行動経済学』

センディル・ムツライナタン
& エルダー・シャフィール 著

全く同じ人間でも楽な1日のあとには「中流階級」の人のような行動をとり、大変な1日の後には「貧困」の人のような行動をとることが分かっています。つまり貧困とは個人の資質の問題ではなく、誰にでも起こりうる問題だということが経済学で分かります。経済学はこのような問題も考えます。

法学部 塩澤一洋先生 推薦

『スタートライン債権法』 『スタートライン民法総論』

池田眞朗 著

プレゼントをあげたり、お店でパンを買ったり、下宿を借りたり、企業で働いたり。そういった契約ルールの基本が民法に規定されています。他にも保証人になるとか事故による損害賠償など人生の諸ルールがきちんと書かれている一番わかりやすい参考書。法学部の期末試験はもとより公務員試験や司法試験で最も問われる「基礎の理解」を得られます。法律を学ぶ人が最初に読むベストな入門書。『債権法』の方を先に読むといいですよ。

法学部 宮島和也先生 推薦

『図説 アジア文字入門』

東京外国語大学アジア・
アフリカ言語文化研究所編

インド系文字・アラビア文字・漢字系文字・ラテン文字やキリル文字など様々な文字が使われているアジアは、まさに「文字の宝庫」です。本書ではアジアの文字の概要や歴史について、豊富な図版と共に分かりやすく解説しています。図版を眺めるだけでも、その多様な文字世界を味わうことができますでしょう。ご自身の母語をはじめとする、自分の中の「当たり前」について改めて考えるきっかけにもなるかもしれません。